

第1回益子町図書館基本計画策定委員会会議事録

日 時：令和2年11月6日（金）

14時～16時

場 所：益子町中央公民館 第1研修室

出席者 委員20名 事務局5名 アドバイザー1名 欠席者4名

1 開 会

事務局 ただいまより、第1回益子町図書館基本計画策定委員会の第1回会議を開催いたします。開会に当たり、委嘱状の交付を行います。委嘱状公布は、代表公布で実施いたします。

2 委嘱状公布

3 町長挨拶

益子町の歴史の中で、いろいろな公共事業をやってまいりましたが、どれだけ事業に愛情をかけたか、一人一人の愛情をもちろん、できるだけたくさんの人に関わってもらったその愛情というものが、公共事業の成否にかかってくると思います。公共事業ですから、財政的な部分もふくめて反対意見も出てきますが、それは当たり前のことです。反対意見があるということは関心があるということ。こういう人たちとしっかりと接点をもてば、財政的に将来益子町が、どうにかなってしまうというようなことは、現実的にはないんだけど、その辺をしっかりと説明しなければならない。それは、我々町の執行部のほうでしっかり行っていきます。ただ、みなさんをお願いしたいのは、計画の中身について、あれも言いたかった、これも言いたかった、こうしておけばよかったということ、可能な限り引き出してもらって、そして、愛情の総和を大きくしていただきたいと思っております。これから、実際に出来るまでにはまだまだ時間がかかりますが、その長い時間を一緒に楽しくやっていきたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

事務局 続きまして、自己紹介にうつらせていただきますが、その前に、次第の7番、研修で本日講師としてお招きしました、アドバイザーのご紹介をさせていただきます。

豊橋、須賀川を始め、多くの新図書館、文化教育機関の整備に関わっておられ、益子町においても、7月12日には、講演会を行っていただきました。この度、益子町の図書館整備にかかるアドバイザーをお願いすることになりましたのでご紹介いたします。

それでは、自己紹介をお願いします。お手元に委員名簿がございます。こちらのNo.1から順に自己紹介をお願いします。

4 自己紹介

省略

5 委員長・副委員長選出

事務局 みなさま、よろしく願いいたします。それでは次に委員長、副委員長選出を行います。

最初に、委員長の選出についてですが、みなさまから推薦等ございますか？

意見が無いようですので、事務局から案を示したいと思います。

事務局 それでは事務局案としては、基本構想から引き続きで委員長をおねがいたいと思います。

事務局 いかがでしょうか？

異議なし

事務局 次に副委員長選出ですが、推薦等がなければ事務局案を示します。

事務局 事務局案としては、PTA 代表におねがいたいと考えております。

異議なし

事務局 委員長、副委員長が決まりましたので、これからの進行は、委員長をお願いします。また、町長につきましても、こちらで退席いたします。

6 会議

委員長 あらためましてこんにちは。この度、委員長を務めさせていただきます。基本構想検討委員会では、「未来を育む知の広場」という理念の下、4つの基本方針を目指すということでまとまりました。これをうけて、今年度は、より具体化した、基本計画を作っていくということで、これをもとに、町のほうでは図書館の建設に入っていく、非常に大事な会議だともっております。来年11月には本委員会で計画を提出いたします。早速ですが、会議に入っていきます。

第1号議案、益子町図書館基本計画策定委員会設置要綱から今後のスケジュールについてまでを事務局より説明させていただきます。

事務局 それでは、順番前後しますが、基本計画策定委設置要綱とスケジュールについて説明します。お配りしました、設置要綱をご覧ください。基本計画策定委員会の趣旨、委員任期等記載されておりますのでご確認ください。

委員の任期については次のスケジュールで説明しますように、本日から策定の日までということで来年11月までお願いします。また、過半数以上の出席がなければ開催できないということが記載されておりますので、お忙しいとは存じますが、よろしく願いいたします。

つぎにスケジュール説明ですが、今年度から令和7年度までの計画が配布資料に記載されております。今年の3月に基本構想が提出されました。今年度からR3年度にかけて基本計画の策定を目指します。11月に基本計画を策定し、その後、パブリックコメントを実施したいと思います。R4基本設計、R5実施設計、R6工事、R7供用開始を目指します。

また、委員会のスケジュールについてですが、本日が第一回目の会議です。この後の予定ですが、策定委員会は2カ月に1回で実施いたします。第2回が1月21日第3回が3月17日の開催を予定します。

また、策定委員のみなさまには、先進地視察をお願いします。1回目は12月18日、那須塩原市図書館および、大田原市図書館に視察を実施いたします。2回目の視察は2月17日、須賀川、白河の図書館視察を考えております。2回については現在調整中ですので前後するかもしれません。

また益子町図書館ワークショップと題して、今後さまざまなワークショップを開催します。委員のみなさまには、できるだけ参加していただき、ワークショップのリーダーを務めていただきたく思います。まず地域型として、田野、益子、七井の3地区で、地域型として1月開催を予定しております。

次に学校編として各小中学校の児童生徒を対象に、現在の図書館計画の進捗のお知らせと、アンケート調査を実施いたします。また、小学生、中学生に向けてワークショップをそれぞれ実施します。

また、それぞれの地区で保護者様を対象としたワークショップも実施予定です。

幼稚園、保育園についても、各園にお邪魔しまして、ワークショップを、そこで参加いただけなかった

方には、7園合同でワークショップを実施いたします。また、高校生に向けて、益子芳星高校や真岡高校の生徒を対象にワークショップを開催したいと思います。

来年度については、テーマ型として、子育てなど、テーマを絞ったワークショップを開催します。また、それぞれの団体ごとのワークショップも来年度開催を予定しております。

つぎに益子町図書館基本構想検討報告書についても説明いたします。お手元の報告書を見ながら、説明をお聞きください。

基本構想検討報告書について

省略（別紙に記載）

委員長 事務局より説明がありました。それでは何か質問はございますか？無ければその他にうつっていただきます。

アンケート結果について

事務局 アンケート結果について報告いたします。お手元資料、公民館図書室利用者向けアンケート結果についてをご覧ください。集計結果については主要箇所のみ説明になります。アンケートは9月1日から10月31日まで実施いたしました。その間、50名の方から回答を得られました。内訳といたしましては、男性5名、女性45名となります。一番多く回答いただいた世代は60～69歳が14名。次いで、30～40台が7名でした。ご回答いただいた方の居住地区は、益子小学校区が19名、益子西小学校区は10名と約半数以上のかたが益子地区の方となっております。図書室の利用率について、2週間に1回の頻度で利用すると答えた方が31名。月に1回が10名でした。1回の滞在時間は30分以内が23名。1時間以内が20名と、ほとんどの方が本の貸し借りのみの利用となっております。つづいて移動手段は自動車が45名、5名が自転車でした。つぎに、新図書館に充実してほしいサービスですが、Wi-Fiの設置など、持ち込んだPCやスマホをインターネットを接続するサービスと答えたかたが26パーセント。調べものや図書館内の図書案内相談の充実が25パーセントとなります。

次に、図書館に充実してほしい資料についてですが、大人向けの小説、読み物が16パーセント、絵本など子ども向けの本が13パーセント。大人向けの料理や旅行などの本が12パーセントでした。

新図書館に期待するスペースは屋内でのんびりとくつろげるスペースが21パーセント、飲食できるスペースが15パーセント、学習室など自習、仕事ができるスペースが12パーセントでした。

自由記述についてですが、多かったご意見は、蔵書数を増やしてほしい。一回に借りられる量を増やしてほしい。書架が狭すぎる。子どものコーナーと一般コーナーが近く、仕切りを設けるか離してほしい。コンセプトのあるまじらしい図書館をつかってほしい。足を運びたいイベント、展示を行ってほしい。などのご意見を頂戴しました。アンケートの結果報告は以上となります。

委員長 以上で会議は終わりますが、次に研修に移りたいと思います。

事務局 委員長、ありがとうございました。それでは準備がございましたので休憩をとりたいとおもいます。

（ここまで、レコーダーで38分経過、10分休憩、研修48分から開始）

研修

よろしく申し上げます。まず、私は町のお金で雇われた身ですので、先生などと思ってもらう必要はぜんぜんありません。遠慮なく使い立ててください。私は、雇われた自治体どこでも言っているのですが、町民のみなさんの税金からお給金をいただいているのですから、みなさんにお仕えする義務があり

ます。それ以上に大事なものは、みなさんというより、この先この町に生まれてきて、私たちの世代が作る借金を払ってくれることになる若い世代のために仕事をしているとおもっていますので、どんなことでも聞いてください。この仕事の役割として思っているのは、あちこちの施設を視察していますので、みなさまに成り代わり、目となり耳となり、あるいは杖としてお使いいただければとおもっています。たとえば、こういうことをしたいとおもっているが、他の町でやっているところはあるだろうか？といったことを聞いていただければとおもいます。

いま、須賀川市民交流センターの映像を流していましたが、明日から2泊、須賀川にいきます。

市民交流センターに関わった事業者全員で集まって、半年に一回、反省会といいますか、うまくいっていないことを探り、これからどうすべきかを考えるという、死ぬまでやると言われている委員会があるんですが、それがありません。その翌日は、とある取材があるので、同席してほしいということです。そのように、私共に関わった自治体とは、そのようにずっと関係を持っていくつもりです。

そのあとには四国に行って四国から帰ってきたら青森に向かいます。その後もいろいろなところへ行くのですが、はっきりいって覚えてないくらいです。スケジュールをみながらでない。それぐらいあちこちへ行っていきます。

だいたい日本に1700自治体くらいあるなかで私は1000自治体くらい行っています。

日本に3000館ある公共図書館のうち2000館くらいに行っています。これほどの数の図書館に行っている人はなかなかいないと思います。

ですから、みなさんにとって辞書、データベースだとおもってください。焼き物の町でいい他のいい図書館はある？だとかなんでもいいので使っていただければと思います。

ということで、少し話題提供ですが、私も皆さんと同じ立場で委員をやることもあるのですが、初回はなかなか議論になりにくいと思っています。今日私からいくつかお話をして、後半、それをネタに、こんなことしたらいいなということなどや、皆さん同士の語らいの材料にできたらいいなとおもっています。

いま流していたのは、須賀川市民交流センター、今度見学会が行われると伺っておりますが、こちらの開館記念に造った映像。これは私共の会社で受託し、ロング版とショート版でつくったもので、YouTubeにアップロードしています。

ロング版で40分となかなかの長さですが、特に現地に行かれる方は是非とも見ていただきたいと思います。事前に見ていただくとあれこれと合点がいくかとおもいます。かなり気合を入れて作りました。ぜひご覧いただければとおもいます。

今日はみなさんにすごく新しい話をご提供できるというわけではなく、改めてこれからみなさんのなかで検討を進めていくうえで、ここがまず大事じゃないかなというお話を、ちょっとまえに作ったとある資料をもとにお話ししようとおもいます。

私共の会社、様々な自治体で様々な図書館をつくっているのですが、そのなかでも近年における我々の仕事のなかで大きい規模のものが須賀川市民交流センターですが、それ以外にも様々な取り組みをしまして、私共のような事業を行っている業者のなかでも、本町と同じように、図書館が無い町のお手伝いをすることが多いです。そういう取り組みが多いかとおもいます。最近では町村からのお仕事の依頼をよくいただいていると言ってよいかとおもいます。

図書館をゼロの段階から作り上げていくという上で何が大事だろうか。ここに来るまでつらつらと考えていました。須賀川市の仕事、5年くらいかけてやっていたのですが、その時の資料を探し出したので、今日のための資料を一つ作っていたのですが、それはやめにして、こっちを見ていただければとおもいます。

持ってきました。

これは 2014 年、私共がはじめて須賀川市に呼ばれたときの資料です。この時は私たちはまだ須賀川から、仕事を依頼されたのではなく、お試しとして、須賀川から提案できることはなにかを聞かれ、初めて須賀川市役所へ伺いました。須賀川市は東日本大震災のときの揺れ災害の最大被害地の一つで、市役所が倒壊し、よく死者がでなかったと思うものですが、普段から危ないと思っていたので、揺れが来た時に急いで避難して、振り返ったら庁舎が半壊していたという話でした。

その時は市内各所の空いている施設各所に職員が点在していて、町長室はプレハブ小屋という状況でした。その時にお話しさせていただいたのですが、市民交流センターは図書館を核として作るんだという話でしたので、まずこの話をしました。震災復興というお話ですが、それ以前に、まちづくりという観点から、図書館には親和性があるんですよというお話です。

東京都の千代田区や長崎市や熊本市で年間 100 万人くらい来る図書館は最近当たり前です。

長崎市や熊本市は人口が多いから当たり前だと思うかもしれませんが、熊本駅前森都心プラザ図書館ですが、熊本って駅前は正直なにもないんですよ。益子駅前と大差ないです。地方の駅ってそういうのが多くて、宇都宮駅はすごく栄えています、関東圏の駅ですので、西日本では駅行って外れたところが多いです。そういうところであってなお人を集めるということで、図書館は人を集める施設です。という話をしました。とにかくたくさん事例を考えましょう。釧路市、名取市、栃木県内の小山市など、おそらく県内の図書館で全国的に最も評価が高いのは小山市だと思いますが、このように全国的に見れば聞いたこともないような自治体においても、結構いい図書館があるんですよという話をしました。小山市ですが、栗原さんという業界では有名な館長さんが非常に仕掛け人でして、農協と組んで図書館前で農産物販売をやったりしました。

小山は農業都市として、首都圏の農業供給において重要な場所ですので、実はあの町で農業で起業しようという人が多く、栗原館長は、そういった若者と関わりを持っていて、同じことをやっても先輩の農業従事者には敵わないから、新しいものを作ろうとって、専門的な農業の本などで、もっと勉強して、知識をつけて、それで農業やろうと言って。その取り組みが農業支援として成功しました。

農業支援を行っている図書館は全国にあります、その総本山が実は小山です。

そんな風にいろんな事例を挙げてお話ししました。須賀川の場合は中心市街地活性化が重要な課題であるため、よその取り組みはこんなことをやっている。これが 1 回目です。

2 回目は、もう少し突っ込んだ内容を聞きたいということですので、最近の図書館事情として、本を借りるだけじゃないんですよというお話しをしました。だから 100 万人も来る図書館があるんですよと話しました。そして、図書館自体が今すごく変わってきている。図書館を整備する自治体ってすごく多いんですよ 1740 の自治体のうち、1300 自治体は図書館を持っている。市町村で言えば市はほとんど図書館を整備しています。町になると設置率は 50% くらい。村になると 20% くらいになります。

しかし最近、町で図書館作る自治体が増えていきます。だから益子で図書館をつくる話を聞いた時、正しいことだと感じました。ちょっと偉そうな言い方ですが、すごく賢いなおもいました。目覚めている町村は図書館を作っています。安穩としている。あるいはあきらめてしまっている自治体は図書館をつくらない。先ほど説明があった基本構想でも明確に説明がありましたが、人を寄せていくためには図書館は必要なんです。というより、図書館が無い町に人は来ない。というのが全国的な取り組みから明らかになったのです。島根県の海士町の例です。益子はだんだん厳しくなっている。シャッターを閉める店が増えてきていると感じているかもしれませんが、はっきりいって北関東の自治体である、首都圏の自治体である時点でましです。中四国の自治体、このままいくと町が消えてしまうという自治体がたく

さんあります。みなさんニュースでよく聞いているかもしれませんが東北、女川とか南三陸
南三陸町は私も支援でずっと携わっていて、津波で流された図書館を仮設で復興して、それでも皆さん
思っています。「この町は消える」ここまで激しいダメージをうけて若者が減ると、今はいいが、10年
20年経て、この沿岸部は衰退するだろう。ということを感じます。世の中にはほかにも厳しい自
治体があります。それがこの海士町です。人口は減り、戦後間もない頃は6千人いました。隠岐諸島は
戦時中疎開が盛んで人口は多かったことから、比較的安全でしたが、戦後、人口は減り続け、いまや2
千人を切るようになりました。ところが様々な取り組みきっかけに若者が増えた。特にU・Iターンが
増えた。特にIターンが。海士町を名指しで移住してくる人が増えました。いろんな取り組みがありま
すが、とりわけ効果があったのは、県立高校の魅力化、島留学の子を増やしたこと。もう一つは図書館
を作ったことです。人口2千人の離島で図書館を作るって大変なことなんですけど、ちょっと考えてくだ
さい。こんなにもない町に移住してくる。すくなくとも海士町より都会から来るんです。いろんな移
住者からヒアリングをしますと、コンビニがない。映画館がない。は許容できても、図書館がないって
いうことは許容できないという声があります。彼らは都会っ子だから、図書館がある環境で育ってきま
した。彼らからしたら、図書館がないって考えられないんですよ。横浜や名古屋、大都市で育ってきて、
彼らからすると、図書館がないって選択肢がそもそもあるんですかと。海士町はそこを敏感にとらえ
たわけです。移住者が社会インフラに何を求めるのか？何もかも先端的なものじゃなくても、あって当
たり前と思うものはあったほうがいい。その結果海士町の図書館は非常に有名なものとなった。行くと
大体だれかに会える。島に遊びに来てる人とも出会うのに手っ取り早い場所。あと、さっきもありま
したが大事なことは、インターネットが使えること。無線LANがあるから。ちなみに上では公民館にな
っていて、小中学生が卓球をやっていたりして。ピンポンの音が聞こえてくるような場所ですが、みん
なそれを楽しんでいる。こんな例をお話ししました。

3回目に呼ばれたときは、顔触れを変えたのでまたその話をしてくれといわれました。

それで少しデータを足してみました。1993年から2013年の間で、平成の間、全国で図書館が2千から
3千館へと増えたということ。平成の年間は大変な時代でもありましたが、良い点としては、社会が文
化的なことに投資をした時代でもあったんです。また、きちんとやらないと、ただ建物を建ててもうま
くいかないんですよという話をしました。これは豊後高田市の図書館です。週末ですが、開館してすぐ
おとずれたのですが、駐車場に3台しか止まっています。中も人がほとんどいない。何が問題なのか
という話もその時したのですが、さっき見せた図をすこし発展させたもので、須賀川市にとって参考に
なるケースをアンダーラインを引いてもう少し詳しくお話ししました。

4回目、その時は今までのさらに発展版ではなしました。須賀川市にとってこういうことが大事なん
ですと。こういうものをつくる。日本でも屈指の施設になるというお話し、市民活動が活発で高度化
する場になる。なによりも帰ってきたくる場所をつくるということをお話ししました。

5回目も今までの資料を徐々に発展させながらお話ししましたが、ここで最後、大事になってくるのが、
このあとにもう一回資料があるのですが、我々も具体的にこういうことをお伝えしました。

視察に行きましょう。いろんなものを見に行きましょう。考える上では議論することも大事ですし、文
章をつくりあげることも大事ですが、いちばんは、よその町を見に行くことです。

とくに須賀川は、皆さんも視察に行かれたら話し好きのセンター長とお会いすることになるかもしれ
ませんが、はじめ、このセンター長とお会いしたときにケンカになりました。視察に行けといっても金
がないという話になって。

須賀川は70億の費用が掛かっています。そのほとんどは国民の税金です。復興資金を使ったので。

私は自分の税金が復興のために使われるなら、進んで税金を払いますが、70億の税金を使うのになんとなくで整備するなんておかしいでしょと。すでに復興資金の使い方でもいろいろなところで問題になっている。視察予算は自分たちで組む必要があるんです。復興資金はつかえない。須賀川市が数百万の金を出せないっておかしくないですか？70億の買い物をするのに。といただきました。70億の買い物をするなら、1千万の予算を組んで見に行きましょう。大事なのは見に行つてうまくいったものをみる。そしてうまくいっているとされているがうまくいっていないものもたくさんある。それを見に行きましょうと。当初予算100万円の視察予算をひと月で使い切りました。私とセンター長、当時の準備室長と示し合わせて、東北三か所くらいをめぐるツアーをやって。

6月の議会で補正予算を出して500万つけてもらいました。行政のルールとしてはありえないことで、大目玉をくれましたが、最終的にはご理解いただけました。結果的にはいろいろなところへ視察に行きました。小山にも行きましたし、この辺だと茨城、結城にも行きました。おもに東日本中心に。というのも被災地だったのであまり長く市から離れるわけにはいかなかったものですから。遠くても兵庫県くらいまでですかね。都合5~6か所回りました。一部は自腹で。その結果すごくよかったのは、いろんな話、とくに裏の話も聞けて。他の町の公務員のかたが私たちは失敗しましたから、あなたたちは失敗しないでください。あと知恵ですが今だったらこうするという話をしていただきました。その中の何人かにはアドバイザーにも入ってもらい、そうしてあの施設ができたのです。

生涯かけてお返しいただいた地域の方にお返しをしなくちゃいけないと思いますし、そのためにできることは、施設をよいものにしていき、市民交流を生み出されてくればいいなと思います。

須賀川にはいまでも毎年のように支援にきてくれたからが遊びにきてくれます。逆にこちらが遊びにいったり、熊本地震のときには支援に行ったりと。でもすべての始まりはこの施設でした。

合計で7回、須賀川市では同じような説明をだんだん深化させて行ってきました。

みなさんに伝えたいのは、一足飛びでなにかができたわけではないのです。

須賀川は今月中おそらく来館者トータル100万人を超えます。7万人都市でこの速さで100万人を超えるのは、それだけみれば、すごいねで終わってしまいますが、たくさんの手間暇と時間と、お金をかけた結果です。そのお金も無駄に使ったのではなく、本当に大切なものを見てくる。学んでくる。それを地域のなかで共有する。ここにいたるまで実に5~6年の苦闘があって今の須賀川市民交流センターがあります。

ですから、益子においてもこれから検討を進めていく上で、是非ともいろいろ視察に行く機会をつくってほしいと思いますし、いい話ばかりを聞かず、須賀川なんていろいろ聞いていただければとおもいます。やり直せるならやり直したいところはどこですか？とか

須賀川は、お返しするつもりで話してくれます。そういうのを積み重ねていくとき、数年後私たちは、須賀川とおなじ気持ちになるはずですよ。全国の人たちに助けてもらったから、今度の陶器市のときには一緒に新しい施設を見てもらって、一緒においしいごはんを食べよう。そういう夢をもつことができるんじゃないかとおもいます。

最後に一つ大事なことは、焦ることはないです。みなさんにとって一番の強みは、県内最後の一つですが、時間があります。考えて、設計して、つくっていくという時間があります。須賀川は復興資金の関係から時間がなかった。今後、お金のつかいかたによってゆるやかにいろいろな時間的制約が出てきますが、でもまだ、比較的、いろんなことを考える時間がみなさんにはあります。時間をもっているって、ものすごい強みです。時間ってみんな共通で、有限で同じ量しかもってない。でもこれからまだ白紙の段階でつくっていくことができる。基本構想をベースに発展させていくことができるということ、す

こしゆとりを持って考えていってもらえたらなとおもいます。ということで私からはこれまでとして、質問あるいは皆さん同士の語らいを行っていただければとおもいます。ご清聴ありがとうございました。

事務局 ありがとうございます。これから、当委員会においても視察に行くわけですが、様々なお話をいただければとおもいます。終わったところで、みなさまご質問や聞いてみたいことがございましたらお願いします。

委員 須賀川の事例は大変興味深く思いました。二月の視察には予定を合わせて是非とも行ってみたいとおもいます。アドバイザーが関わった近隣のところで、最近の事例はありますか？

アドバイザー 私共の会社、関東圏の会社ですが、関東では事例が少ないのですが、今まさに進行中なのですが、東京都瑞穂町という町があります。瑞穂町のもともとあった図書館を大規模改修工事をかけていて、それが比較的町立クラスでは近いケースです。宮城の名取市、仙台空港のある町ですが、東日本大震災の津波で1千名が亡くなられた町です。ここも図書館を立て替えて、来月で2年目になります。ここはある意味、ごく普通の図書館です。奇をてらわない、普通でいい。ということをして市民のみなさんと話し合っただけ重視してきたことです。広さにして3000㎡くらいですが、まあまあ大きめに見えるかと思います。あとは自分が関わって皆様が比較的行きやすいのは、ちょっと異色なのですが、長野県の県立図書館です。これは三階部分だけ使われない会議室があったので、壁を抜いてリノベーション工事を行い、本を置くのではなく、現代において本来が持つべき役割はこうだろうという、新しい機能を持たせたものをつくりました。あとは、すごく遠いのですが、いちばんおススメは、すごく遠いんですが、町の規模ですと鳥取県の智頭町というところが今月オープンします。建て替えましたが、前の図書館はこの公民館図書室と同じような規模でした。こちらに関しては、比較のみなさんにとっては町の図書館というものがイメージつきやすいのではないのでしょうか。

委員 ありがとうございます。要するに聞いたかったことはですね、基本構想ではかなりのところを視察している記録がありますが、構想段階での視察の情報を持ち合わせていない。先ほどアドバイザーが、かなりの経験をもとにいろいろなところを視察されているとおっしゃっていたので、たとえばこの近隣の茂木や真岡、そういったこのマーケットのなかでの益子の図書館のありかたってのが何となく見えてこないとどうしていいのかわからない。そういう全体を見た中での位置づけを先生のお力を借りてやっていくことになるのだろうとは思っているのですが、すこしでも先生と同じ土俵に立って意見を言いたいとなると、近隣の図書館の情報くらい、事務局が視察にいった図書館の情報くらい提供しておいてもらいたいということをお願いしたかった。

アドバイザー それについては、事務局が、たぶんしていただけるのではないかと思います。参考までに言っておくと、県民の皆さんにはお耳障りかと思いますが、日本全国で見たとき、栃木県内の図書館はかなり下の方だということです。さまざまな考え方がありますが、栃木県は民間委託が最も進んでいる県です。図書館運営は指定管理者制度で丸投げしているケースがすごく進んでいる。その結果なにが起きているかというと、際立つ図書館はほとんどない。そのなかで小山だけが際立っているといっただけいいでしょう。足利は図書館がなかった。建物を県立図書館分館から払い下げを受けるまでは。というように感じて、だからこそ私がみなさんに進めているのは、これは。というものを作ったなら、益子の

ネームバリューも手伝って、ものすごく人が来ます。確実に。

那須塩原が黒磯駅前に新しい図書館をつくりました。知り合いの建築家が携わったものなのであまり厳しいことは言いたくありませんが、見た目だけだと思われれます。運営がすごく良いかといいますと、いままでを考えるとおしゃれな施設を作っただけで終わるんじゃないかと思います。茂木をつくった建築家ともいま一緒に仕事しているので言いにくいですが、やはり見栄え重視だとも思います。

大事なのは見た目じゃなくて、使う住民の方にとってどうかです。須賀川もおしゃれな建物ですが、基本的には市民の活動の場所として機能しているということです。

もし見に行くというのであればおススメは東北です。なぜなら東北は震災復興であたらしい図書館が多いから。ここからであればおススメは白河市、須賀川市、その周辺にある小さな図書館。

福島はあまり合併していないので小さな町が多いです。その辺の町の図書館の使い方はとても勉強になります。その辺も、どういうものがみたいかをおっしゃっていただければ、おススメ案を作りますのでよろしくお願ひします。

委員 個人的にこういう図書館が機能があったらいいなということではいくつもあるのですが、たとえば情報をただ単に置いておくのではなく、自分たちで価値ある情報を作ることができる図書館、情報を収集し、編集して提供することができる図書館。大きい図書館一つだけではなく、親となる図書館一つではなく、分館とのネットワークを形成して貸し借りができる図書館。デジタルの部分で、実際に物質的な紙の本と、現代のデジタル技術とのバランスを取れた図書館。この三つについてなにか実際例はありますか？

アドバイザー たいへん鋭い指摘だと思います。まずデジタルという点でいうと日本の図書館はかなりきびしいです。今回のコロナで緊急事態宣言発生後日本の図書館の90%が休館しました。全世界的にも似たような状況ですが、違いがあったのはニューヨーク公共図書館はオンラインで利用できましたが、日本はそうではありませんでした。次に、新しい知識を生み出していく図書館についてですが、たとえば私がアドバイザーをしている岡山県津山市の図書館ですが、オリジナルの絵本をコンテンツでつくってyoutubeで配信したり、あるいはデジタルアーカイブとして地域の古い写真をデジタル化してオンラインで閲覧できるようにする取り組みを熱心にやっています。こういうところが散発的に出てきているといってよいかとおもいますが、これも、本当にすごいといえるものがあるかという点はまだです。ですから、逆にとてもチャンスだとも思います。今回コロナで、改めて来館して利用するだけではだめだ。デジタルで、自宅やスマホで利用できるような取り組みが必要だと明らかになりました。すでに施設をつくった自治体は、ハコに抛りすぎているので、その点これから建てる図書館のチャンスではないでしょうか。どこが参考になるかという点ですが、絵空事と思わずに、ニューヨーク公共図書館です。この町の規模でニューヨークに敵わないかという点で決してそんなことはないとおもいます。だって、都市の規模では東京だってニューヨークに負けちゃいない。でもニューヨークの場合、地域全体で図書館をととても大事にしている。そしてそこに投資をしている。ちなみにニューヨーク公共図書館は市立じゃない。民間財団が運営しています。すべて自主運営、自主財源です。市もそこにお金は出していますが、実は市立ではない。そういうことができるほどニューヨーカーはそこに価値を感じている。

毎年クリスマスチャリティを行っていますがニューヨーカーそれにセレブリティの間では図書館に寄付することがステータスとして、ハリウッド芸能人が寄付してたりします。

委員 ニューヨークの図書館は、寄付だけでなく、お金を稼ぐというところも自分たちが生み出したコンテンツに拠っているのですか？

アドバイザー ライブラリーショップというものがあります。ここはものすごい勢いでお金を使っちゃう場所です。ニューヨーク公共図書館にある有名なライオンの像は、いまマスクをつけていて、この図案を用いたグッズなんか飛ぶように売られています。

やり方はいろいろあるんですが、益子はみなさんが思っているよりすごく有名です。なぜ有名かというと、焼き物の文化があるわけですからこういうものと組み合わせて、記念になにか買ってほしいと、そういった小売の部分だけで図書館を運営できるわけではないとはいえ、図書を購入できる費用に充てることができる。先ほど須賀川での説明に用いたスライドに写っていた紫波町ですが、そういう仕掛けをたくさんつくっています。小さな商いをたくさん行い、そこから図書購入に充てています。つまり税金だけを頼りに図書購入を行っているところだと金がないというとき、本を買えなくなっちゃうときにも、二重三重にお金を稼ぐ取り組みをおこなう。例えば紫波町に関する本がありますがその本の印税を図書購入に充てられる仕組みにしています。だから、ライブラリーショップなどでの売上げの10パーセントが図書購入に充てられますとあったら、来る人は勢いで買ってくれるんじゃないか。そういったことをいまから考えておくのはいかがでしょうか？

委員 ありがとうございます。あと分館機能についてはいかがでしょうか

アドバイザー 分館を小さくつくるという自治体はありますが、現実的に本館以外に分館をつくるのは難しい。那須塩原は三館あるが、それは合併したからであって、一つの自治体の中に中央館と分館をつくるというモデルは成り立たなくなっている。というのも財源が賄いきれないから。津山でやっているのは民間の店舗や企業に協力してもらい、専用の貸出システムを地元企業と開発して、そこで貸し出しをする仕掛けを取り入れてます。図書館には団体貸出という制度が一般にあります。図書館の本を200冊300冊と、特定の団体に貸し出すのです。幼稚園や保育園に対して。そこで再貸し出しすることを認めるのです。

この本は1年間保育園に貸し出しますから、その中で園のルールで貸出してくださいという風にします。津山はかなりこれを活用しています。津山は合併自治体なのでいくつか分館があるのですがそれだけでは賄いきれないくらい大きな自治体です。津山は市域が淡路島くらいの大きさがありますし山奥の集落が多い。その集落開発センターやカフェに貸出を行っています。

実は海士町でもこの取り組みは盛んです。今日、町内をご案内いただきましたが、益子町もそこまで広くないといっても十分広い。子どもの足や車をつかえない人には行きにくいところもあります。

参考館や子育て支援センター、道の駅にも本が置いてありました。そういうのを一つの仕組みにして町内まるごと図書館にすることも考えられます。でも、それをすべて税金でやろうとすると制度は破綻します。ここで大事なのは町民の皆さんが助け合う事です。通り道だから自分もっていくというような、乗り合いみたいな発想で。そういう仕掛けが成り立てば、じつはこれはすごく便利だとおもいます。ぜひこれからの計画で検討していただければとおもいます。

委員 廃校になった空間や地域公民館であまり利用されていなかったりします。そのなかで、図書館機能を持たせて、そこで本を借りれるようなそういったシステムを構築しているところはありますか？

アドバイザー 一番は海士町ですね。離島って山が厳しいんです。この取り組みで大事なものは、本を置けば成り立つわけではないということで、プログラムが大事です。道の駅を見たときにおもったのは、あのままではあまり使われない。でも、原っぱがあるのでそこで本の読み聞かせをおこなったり、あるいは移動図書館車というものがある。キッチンカーの図書館版みたいなものですよ。それを回せばかなり人がくると思います。徳島市がやっていますが、スーパーの駐車場で移動図書館車がくると人がすぐ来るのでスーパーが感謝するくらいです。いろいろやりようはたくさんあるとおもいます。

事務局 ほか、質問ございますか？

委員 私は学校司書をしていまして、今益子町は図書館がない状況なので、先ほどの分館の話につなげまして、学校図書館同士での相互貸借はできないだろうかということを考えています。益子町に図書館ができればそこで団体貸出をしてもらえるとはおもいますが、図書館が出来るまでに、学校と今ある公民館の図書室との連携をうまくできないかということを考えます。

アドバイザー 二つの点ですごく大事だと思います。一つは、今できることは今やりましょう。施設ができたときにやるというと、大変なことになります。オープンしたタイミングではやるが多すぎて回らないです。少しずつできることは少しずつ慣らしながら、うまく行かなければ試行錯誤していけばいい。オープンする前から少しずつ始めちゃうということです。もう一つ大事なものは私たち大人は考えなくちゃならない。子どもたちの居場所はやっぱり学校なんです。どこに図書館を建てようとも、便利に行くことのできる子もいればそうじゃない子もいる。この不公平性を解決しようはない。

でもそこで仕方がないで終わらせることはできない。子どもたちが毎日いく、幼稚園保育園学校。ここが入り口になったほうがいい。さっきの分館の話も、学校が分館としての役割をもつこともできる。さきほどの話にもつながりますがやはり配送の方法を考えなくてはならない。有名ところで、島根県の雲南市というさとう山奥なところですが、雲南市立図書館、小中学校の蔵書検索が全て一本化されている。これは山奥のなにもない自治体だからこその努力だと思います。本屋がないから、子どもが本に接するのは図書館くらいしかない。雲南市も広い自治体なので図書館にはなかなか行けない。

秋田県では明確に効果がでているのですが、学校に本をおいて、子どもに本を触れてもらえるようにすると、確実に学力があがります。秋田県の東成瀬村という村がこの取り組みをやってます。益子と同じで図書館がない。村民センター図書室と小中学校統合一体校が廊下でつながっていて、全クラスの廊下に所狭しと本が並んでいます。なぜかという子どもは知りたいと思った時、すぐ調べられるようにするためです。実際、秋田は学力ナンバー1の都道府県ですが、そのなかでも東成瀬はトップクラスの学力を誇る自治体です。そういう意味では学校に力を入れるというのはこの地域の子どもたちにより良い教育を提供する機会につながるとおもいます。あとは全体のバランスがあるとおもいますのでそれをどう考えるのかがこの委員会だと思います。そこで、いろんな取り組みを考え、実践し、その成果をここで話し合いたいとおもいます。

みなさんに今後考えてもらいたいのは、何をやって、何をやらないかです。足して、引いて、磨くと私はよく言いますが、これは絶対に必要ということは足していってください。でも足して、足していったとき全てを行うことは絶対に不可能です。なにかをあきらめる必要がある。だからこれはあきらめる。でもこれだけは、誰にも負けないトップのものを作ろうということを考えてください。

難しい問題ですが方向性があるように、未来に対して投資をするなら、そっちを重視したほうがいい。

逆に何を引くかという、シニアに対する投資を削ったとしてもそれを行った方が良いということです。私を含め、人生の半分を過ぎ去った人に投資をするよりも、これからの人たちに投資をすることが責任ではないかとおもいます。そうすればかならず未来はひらけるとおもいます。

明石市は子どもが増えていてすごく有名です。明石が何をやったか。公共図書館の整備、学校への投資、子育て遊具の整備、すべてやっていることはひとつです。次世代への投資を行うということを、確固たる意志をもってやっています。結果、神戸や姫路といった大都市から多くの若い人が引っ越して、子どもを産むなら明石というイメージを確立しました。

それは私たちにもできることですし、この町らしい、足す、引く、磨くを考えて行けばどうでしょうか・

事務局 最後に一つ質問を受けて、それ以外については、終了後に直接質問していただければと思います。

委員 来月から視察に行きますが、この中で、それぞれ見るポイントは違うかと思いますが、私は専門が建築なのでデザインに目が行くのですが、議論するにあたって、どういうポイントをみればいいかなどはありますか？

アドバイザー 図書館としての実力の評価ですが、みなさんが自身のある分野についての棚をみてください。本当にすごい図書館は、棚ごと持って帰りたくなるような棚になっています。農業者なら、小山市の農業の棚は目を見張るものとおもいます。次に地域資料です。実力ある図書館なら、棚をみれば、出身者や地域の名物などがわかります。益子の図書室も入り口に地域資料がありますよね。

それ以外の点で言えば、長めに滞在して、来館者が何をしているかをみてください。どのように過ごしているかを。図書館によっては職員と来館者が楽しそうにおしゃべりしていたりすると地域の顔が見えているんだということがわかります。そういう関係性ができているかどうかは少し長く滞在してみないとわからない。

あとはスタッフに話しかけてみてください。まずいところは、今日、視察に来ているということを共有できていないということがあります。たまたままずいスタッフに当たったというのではなく、そういったことを放置しているならばそれは組織の問題です。本当にすぐれたところは、だれが対応してもかわらない。そこに実力はでます。

あとは、帰りになにかおいしいものを食べたいけどおすすめはありますかと聞いてください。特定の店舗を優遇するようなことは言いにくいかもしれませんが、対応になれた人なら、どこがいいかはわかりませんが私が良くいくのはここですといった、巧みな答え方をします。

そういう対応力をもっているスタッフがいるのはいい図書館ではないでしょうか

事務局 それでは一旦質疑をおわらせていただきます。

8 その他

講演会について

視察日程について

次回会議について

